

川越業務核都市基本構想の概要

1 構想名：川越業務核都市基本構想

2 範 囲：川越市・鶴ヶ島市（一部）・日高市（一部） 総面積約 11,386ha

3 整備の基本的方向

（１）将来像

○「にぎわい活力中心都市」

県西部地域の『にぎわい活力中心都市』として、豊かな観光資源を生かし、多世代が集まりにぎわう活力と求心力のある都市づくりを進める。

○「文化生活拠点都市」

特色ある歴史・文化・自然環境に抱かれ、育まれる『文化生活拠点都市』として、多様な人材が生まれ、定住する都市づくりを進める。

○「新産業創造都市」

広域的に連携して発展する『新産業創造都市』として、新たな産業を展開する都市づくりを進める。

（２）計画フレーム（平成 27 年）

定住人口：約 340,000 人

従業地就業者数：約 170,000 人

4 整備の方針

（１）機能の整備方針

○川越都心地区

観光・歴史・文化を基調とする拠点強化を図るとともに、西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）を整備し、鉄道立体化等周辺の基盤整備を促進することにより、業務機能、商業機能、産業育成、都市型観光等の広域的な地域の中心核を形成する。

○圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地区

圏央道の整備に伴うポテンシャルの向上を背景に、武蔵野の豊かな自然と産業、生活との調和を図りながら、研究開発機能や、物流機能などを備える多機能複合型の拠点を形成することにより、川越都心地区の拠点性の強化と首都圏における分散型ネットワーク構造の形成を図る。

（２）広域交通体系の整備

○ 首都圏における分散型ネットワーク構造の形成を図るため、圏央道の延伸整備を促進する。

○ 埼玉中枢都市圏業務核都市との連携強化を図るため、鉄道機能の輸送力増強を促進する。

5 業務施設集積地区と中核的施設等

(1) 川越都心地区

(主な中核的施設) 西部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)、鏡山酒造跡地活用施設

(機能整備の方針) 広域的な業務・商業・交流拠点の形成

(2) 圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地区

(主な中核的施設) 流通業務施設群、県農業大学校

(機能整備の方針) 研究開発機能や物流機能等を備える多機能複合型の広域拠点

なお、基本構想の詳細については以下のホームページを御覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A02/BK00/gyoumu/kawagoedoui/kawagoedoui.html>

* 業務核都市

東京都市圏における諸機能の適正な配置先、自立性の高い地域の中心として、個性的で魅力ある都市を目指して整備を推進することとされている。国の同意を得ることにより、構想に位置付けた中核的施設の整備に対して、資金面での支援措置等が受けられる。

* 業務施設集積地区

業務核都市の区域のうち、事務所等の業務施設を特に集積させることが適当と認められる地区。

* 中核的施設

業務施設集積地区を整備する上で中核となる施設で、業務機能集積を誘発させる先導的な施設。